

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500183		
法人名	医療法人 相愛会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう	ユニット名	南館
所在地	宮崎県小林市北西方字種子田原66-3		
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&id=4570500183-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は、梨園や山・田園に囲まれた自然の多い場所にあり、四季を肌で感じる事の出来る場所に位置しています。職員は、入居者の残された機能を活かし助け合いながら楽しく笑顔の絶えない毎日が送れるように支援し、出来る事は見守る・相手の立場に立っての行動・個々の特技を活かしたケアに心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然に囲まれた高台に位置し、四季の変化も一望できる場所に老人保健施設併設のホームがある。管理者と職員は常に理念を念頭に置き、安全・安心を心がけ、一人ひとりの思いに寄り添いながら支援に取り組んでいる。医療法人を母体とし、医療連携も図りやすい環境にあり、日ごろの健康管理から緊急時の対応まで体制を整えて家族・利用者の安心につなげている。職員は日々の生活の中で介護計画に沿ったケアを行い、利用者一人ひとりを尊重するとともに、ニーズに応じた支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、管理者・職員と共有している。理念を浸透させるための取り組みとして理念に基づく具体的な目標を作成し理念について共有し意識をたかめている。		ホーム独自の理念を基に、誰にでも理解できるようなより具体化した目標を作成して理念を共有し、ホームの玄関と職員室に掲示し、意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の行事参加の呼びかけを行い少人数ではあるが参加して下さっている。又日常の買い物など地域の店を利用し交流を図っている。		ホームの夏祭りや月見会などに地域住民が参加しているが、利用者が地域の行事に参加することは少ない。	ホームから働きかけて地域交流の機会を増やし、「地域の一員」として、例えば地域の文化祭への作品出展やその見学に出掛けるなど、地域住民との交流に向けた取組に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ、地域の人々に向けての認知症の理解や支援の方法について活かす事が出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、事業所の取り組みや状況等の報告が出来ている。そこでの意見についても、日々の生活場面やサービス向上に活かす様に取り組んでいる。		運営推進会議を年6回定期的に開催しており、ホームの状況や報告、今後の取組課題などについて出席者からも意見が出されるなど、双方で話し合いを行いサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外においても、事業所の行事に参加して頂く事により、事業所の理解を深めてもらっている。又、相談やアドバイスを頂いたりサービスの質の向上に取り組んでいる。		行政担当者が運営推進会議に毎回出席しており、日ごろの連携が取りやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会への参加をする事で身体拘束をすることによる弊害や、介護職としての倫理観を身につけていくことができています。又日中は施錠はしておらず、誰でも外を行き来できる環境を整えている。		身体拘束はしないことを全職員で共有し実践している。不適切な言葉かけはその場で注意し合い、勉強会も実施している。玄関にセンサーは使用しているが、日中は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について外部研修に参加し学ぶ機会がある。自宅や事業所等での虐待が見過ごされる事がないように注意し防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会がある。それらの制度を実際に利用されている入居者の方もおられる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を活用し、家族へ不安を招かないよう詳細に行っている。改定の際についても、その都度説明を行い理解と納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な面談や面会時において意見や要望を聞く機会を設定している。相談・苦情窓口については、担当者を決め掲示している。又、各ユニットに意見箱の設置も行っている。		来訪時や電話で意見や要望を聞きとり、全職員で共有している。「ゆうゆうたより」で顔写真入りの職員紹介もしており、意見を言いやすい関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回の定期的な会議や個別面談において職員の意見を聞く機会を設定している他に、日頃の業務の中で職員と積極的にコミュニケーションを図ることで業務改善を図っている。		定期的に面談等で意見や要望を聞き、浴槽をリフト浴に取り入れたり、夜勤者負担軽減のためのシフト編成などを行い、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績、勤務状況等の報告を行っている。外部研修への参加や資格取得に向けて各自が向上心を持って働ける環境になっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、苑内研修への参加を促している。外部研修を受ける機会も設定されている。又、勤続年数に応じて認知症介護実践者研修等へも参加出来る機会がある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会主催の研修やブロック別研修会・交流会への参加を行い、ネットワーク作りを行っている。又、法人内のネットワーク作りを積極的に行い、研修会の企画、運営等、活動している。			

自己	外部	項 目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃のケアの場面で本人の言動、行動から安心出来る生活を確認出来るよう傾聴し、本人の家族、本人の同意を得てサービスを導入している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的な家族面談、面会時において、家族等の要望等に耳を傾け改善に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている支援や他のサービス等利用も視野に入れ対応出来る様に取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者の方々が共に生活を送ることを心掛け、職員が一方的に支援するのではなく、本人から学ぶ姿勢で日々共同生活している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望や家族の思いを大切にしながら又、一緒に過ごせる時間を設定し、互いに支える関係を築けている。業務優先にならないよう1人ひとりが心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所をドライブして訪れたり、遠足や忘年会等の行事に家族の方々を招き、入居者と一緒に交流が図れるように取り組んでいる。他科受診時は家族と受診するようにしている。		なじみの温泉に出掛けたり、自宅周辺のドライブや家族の協力で墓参りや遠足などを実施している。デイサービスの知り合いと交流する機会を設けるなど、関係が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が、交流出来るよう共同生活場では、テーブル席を一緒にし、入居者が仲間作り出来るよう支援している。			

自己 外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内・外の事業所との連携をとっている 事の説明を行い、サービス利用が終了してもその後の経過を把握し適切なサービス利用が出来る様に居宅サービス事業者と連携を図り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、触れ合いを通してながら要望・意向を把握し、実際に実現可能か職員同士で話し合い、家族と相談し取り組んでいる。ホーム内のケアだけではなく様々な社会資源を活用し、希望や意向に沿ってケアを提供している。	利用者の表情や行動一つ一つに寄り添い、思いを把握するよう努めている。花好きの利用者と一緒に水やりや観察をしたり、食事時の手伝いや片付けなど利用者の自主性を大事にし、意欲的に活動できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣、趣味が継続して出来るよう自宅訪問や、本人、家族から情報収集し、生活の場面で反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で心身の状態、出来る事・出来ない事・気付いた点を記録・申し送り・会議の中で話す様にし、把握出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを通して課題とケアのあり方について本人・ご家族と話をしている。それぞれの意見やアイデアを反映出来る様に取り組んでいる。状況に応じて、併設の介護老人保健施設の専門職等に相談・アドバイスをもらっている。	モニタリングは毎月行い、カンファレンス、職員会議等を基に介護計画を作成している。3か月、6か月の定期見直しをし、専門職員のアドバイス等も取り入れている。利用者の心身の状態や家族の要望に変化が生じた場合には、随時介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について、具体的な記述を経時的に毎日、パソコン入力し、記載者誰もが常時閲覧でき、情報の共有が図れている。又、申し送りや伝達ノートを活用し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用・通所介護など要望に応じた体制を整えているが、実際の利用までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店、スーパーマーケット等を利用する機会を設け、心身の力が発揮できるように取り組みを行い、馴染みある生活が送れるように支援をしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の健康状態に応じて、その都度、本人・家族と協議し出来るだけ意向に添えるよう援助している。又、定期的に受診出来るよう、通院援助を行っている。		かかりつけ医は本人、家族の希望する医療機関となっている。併設の医療機関とも24時間体制で連携しており、緊急時の対応も可能である。受診結果の情報も共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を配置し、日常の関わりの中での情報や気づきを報告し、適切な受診や主治医との連携が出来ている。又、併設の看護師への相談・連携が出来る体制が整っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、病院関係者と事業所が適切な情報交換が出来る様にサマリーを活用している。入院した場合の経過等についての情報も共有出来ており、入・退院の時期について相談出来る関係作りが出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の都度、病状の確認を行い、早い段階から終末期に対する意向の確認や主治医からの十分な説明を交えながら職員全体で情報を共有し、会議の場を設けその人らしさの生活を支援できるようにケアを統一している。		利用契約時に重度化した場合の指針を説明し、同意を得ている。母体法人の医療関係者と24時間連携し、ケアが可能な限界まで、その人らしく生活できるよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修への参加により、急変時における対応方法の訓練を定期的に行っている。又、個々の入居者の急変に備えた対応方法についても会議等で話し合う機会を設け、対応方法や連絡体制について確認をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練は実施出来ているが、地域の方との協力体制については積極的に呼びかけを行っている。		年2回総合防災訓練を実施している。近隣住民の参加協力までには至っていないが、災害発生時の安心に備えたいと認識しており、協力体制の構築を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりに尊厳を持って接し、その人らしい生活が送れるよう対応している。説得・叱責する事無く、しっかりと傾聴し、その人に寄り添うケアを心掛けている。会議等でその人にとっての尊厳とはなにかを職員で協議している。		職員は、利用者一人ひとりに対して丁寧で優しく、また、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応となるよう心がけ、ケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	失語等の障害により、言いたい事を上手く表現出来なくても、職員が言動・行動から察し、代弁者として働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを把握し、利用者本位の生活を目指している。日常生活の中で入居者の意向に応じた個別支援又は馴染んだ生活の継続を取り入れるなど支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来る様に出来る限り着衣する時は、自分で選んでもらい、出来ない部分については、サポートを行っている。ケアプランを通して整容が習慣化し、在宅時と同じ様におしゃれを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食厨房で調理し個々の嗜好に応じた食事を提供している。入居者・職員と一緒に盛り付け・配膳・片付けと役割分担を行い実施している。		おやつ類を利用者と共にホームで作ることもある。職員は夕食時に、利用者と同じ食事をとっている。盛り付け・配膳・片付けなどを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者1人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。カロリーや栄養バランスは、併設の老人保健施設の栄養士により助言をもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最低でも夕食後に1日1回は、口腔ケアが実施出来るよう取り組んでいるが、口腔ケアを嫌がり拒否される事がある為、声かけのタイミング等を考え、工夫するよう取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、経時的に排泄チェック表を用い、パターンを把握しながら個別に応じた排泄手段の検討を行い、自立した排泄ができるように支援している。		一人ひとりの排せつの自立度に合わせた支援に努めている。排せつパターンや習慣を把握し、早めの声掛けや見守りで利用者のトイレでの自立に向けた排せつ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分の補給や随時、主治医や看護師と連携を図り対応策を検討している。又、日々、日課の中で適切な運動が出来るよう取り組んでいる。オリゴ糖入りのお茶・ゼリーを提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、ある程度設定しているが、その時間にしばられる事なく、個別の希望に応じて対応し、拒否の強い方に対しては、その都度職員間で協議し、タイミングをみながら支援している。		入浴は週3回であるが、利用者の体調や気分に応じて臨機応変に対応し、入浴が楽しくなるよう工夫している。入浴を拒む利用者には、タイミングや職員を替えるなどして対応している。希望があればいつでも入浴が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、1人ひとりの心身の状況に合わせ、有意義な余暇時間が過ごせるよう取り組み、夜間は、気持ち良く眠れる様に室温、湿度に配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法や用量について、確認出来る様にカルテにファイルしている。内服変更や臨時薬の処方の際は、経過記録を残し、変化がないか確認をしている。看護師に、副作用や観察の視点について申し送り表へ記入してもらい職員が閲覧出来る様にしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴と出来る事・出来ない事を把握し、無理のない様に役割を持って過ごしてもらっている。又、個々の楽しみや気分転換が出来る様に支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は、行けない様な遠方にある飲食店、公園などの社会資源を活用したり、年間を通して季節を肌で感じる事が出来るよう、屋外活動計画や家族の協力をもらい、墓参り等の支援を行っている。		外気浴を兼ねてほぼ毎日外出する利用者もいる。全員で外庭で外食することもある。家族に協力を呼びかけ、重度の利用者もリフト車で出掛けるなど、社会資源を活用し、四季を楽しむ支援もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があった際は、なるべく職員と一緒に買い物に出かけている。個人管理出来る方は、少額の金額を所持してもらい、出し入れを職員と共に確認している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方に対しては、事前に家族に了承を得てから手紙や電話のやりとりが出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、季節感のある飾りつけをし、居室の窓からは、外の景色が一望出来る様になっている。室温、湿度にも気を配り、不快に至らず快適に過ごせる様に支援している。		フロアは天井が高く、天窓を設置して採光や換気に配慮しており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。窓越しに四季折々の自然の情景を見渡すことができる。廊下に書や手作りの作品を展示しており、温・湿度の調整や清潔保持もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用生活の空間では、気の合う入居者同士と一緒に過ごせるようテーブルを配置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある生活用品を事業所の居室に置き、環境の変化によるダメージを最小限に抑えるように工夫しているが本人持ちの家具類が少ない入居者については家族の方に協力をもらい、馴染みのある物を持ってきてもらうなど協力を頂いている。		自室の確認ができるよう、入り口に表札を出している。居室にはベッドとたんすを設置し、利用者のなじみの掛け時計や椅子などが持ち込まれている。思い出の写真や好みの書画などを飾り、仏壇を備えた居室もある。冷暖房を完備しており、室温に配慮し居心地よく過ごせる環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時において、障害物とならないよう、物の配置については、配慮しており、夜間帯は、廊下に照明灯を設置しており、転倒の危険を取り除いている。			